

『パウロの祈り③・認識』

'22/03/27(会員総会)

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 18-19節(新約 p.374)

前回と前々回、私たちは、エペソ書 1章の後半に記されてある「パウロの祈り」を通して、今、私たちクリスチャンが目を留めるべきことについて…、また、神様に感謝すべきことについて学んでいます。一体、私たちは、どういったことを神様に感謝し、また、どんなことに目を留めていけば良いのでしょうか？

命題:パウロが、小アジアにある教会のために祈った内容とは？

そういったことを、今日は、過去2回分の復習も含めて見ていきます。…皆さん、これまで、私たちはどういったことを見てきたか、覚えてくださっています？

I・救われたクリスチャンに関する感謝！(15-16節)

まず、先々週に学んだことですが、パウロという人物は、ローマの地で軟禁状態であったにも関わらず、祈る度ごとに、小アジアで救われたクリスチャンに関する“感謝”というものを、神様に捧げていた！ということでした。普通ならば、不平不満、あるいは、悲しみといったようなことが1番に出てきてもおかしくないような状況で、パウロは何よりも…、感謝を神に捧げていたのです！15-16節には、こうあります。

15 こういって、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、
16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。

あのパウロが1番に願っていたこと…、それは、「人々の救い」でありました。だから、パウロはどこに行っても、人々を救うことができる唯一のメッセージである福音のメッセージを教え…、それを伝えることに、自らのいのちを懸けていたのです。

パウロの考えていた本物の救い…、それは、単なる口先だけの信仰告白だけでなく、「兄弟愛」という行ないが伴ったものでありました。だから、パウロは、小アジアで救われた者たちの信仰が本物であるという確証を持って、それを神様に感謝することができたのです。

II・ますます、神様に関する霊的理解が増すように！(17節)

その次、先週に学んだパウロの祈りの2つ目の内容…。まあ、ここからが祈禱課題になるわけですが、それは、ますます、小アジアにある教会メンバーの、神様に関する霊的な理解が増していくことでした。17節で、パウロは、そういったことについて祈っているのです。17節には、こうあります。

17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

先週もお話したことですが、現代のキリスト教会は、あの「ヤベツの祈り」という本が主張するように、「神様！どうか、もっともっと、私のことを祝福してください！」ということを祈るべきだし、もっと、私たちが、そういうことを祈ったら、よりたくさん祝福が与えられるのだ！という傾向にあります。…しかし、私たちが今学んでおりますエペソ書のみことばは、そういったことは、全く正反対のことを教えてくれています！「いいえ！天の神様は、最高の祝福でもって、私たちクリスチャンたちのことを、もう既に満たしてくださっている！」って…。

だから、パウロが祈っているのは、天の神様が、もっと小アジアのクリスチャンたちのことを祝福してくださ

い！ということでは“なくて”、神様から既に与えられている祝福を、小アジアのクリスチャンたちがもっと知ることができるように！気付くことができますように！ということなのです。

だから、パウロは、ここ 17節のみことばに記されてあるように、「神を知るための知恵と啓示の御霊を、与えてください…」と祈ったわけです。…と言いますのは、先週学んだように、私たちに真の神様の偉大さや素晴らしさを気付かせてくれるのは、聖霊なる神であるからです。聖霊なる神が、罪について、義について、また、裁きについて、私たち人間に正しい理解を与えてくれます。つまり、私たちのことを、本当の意味で、霊的に成長させてくださるのは、真の神様なのです。だから、1コリント3章には、『6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。』(1コリント 3:6-7)とあるのです。

…と同時に、先週私たちが学んだことは、あのヤコブ書のみことばから、天の神様は、私たちの成長をもたらすに当たって、私たちの意志や努力を用いてくださる！ということ学びました。だから、私たちは、私たち自身の霊的な成長に関して責任があるのです！だから、私たちは、「霊的な成長は、神の働きだから、私が霊的に幼いのは神様のせいだ！」とは言えないのです。…そこまでが、ここ2回の礼拝で、私たちが学んだことであります。

III・与えられた祝福に対する認識！(18-19節)

今日は会員総会ということもあって、正直、あまり時間が無いのですが、今から、パウロが祈った内容の3つ目を見ていきたいと思います。…それは、与えられた祝福に対する認識！というものです。ここ、18-19節で、パウロは、イエス・キリストを信じたクリスチャンたちが、その心の目がはっきりと見えるようになって、彼らの霊的な事柄に関する認識が変わりますように！ということ祈っているのです。18-19節には、こう記されてあります。

18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、
19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。

良いでしょうか？皆さん？ここで、パウロは、小アジアのクリスチャンたちの、『心の目がはっきり見えるようになって』、彼らが3つのことを『知ることができ』るように祈っています。まず、その項目を見ていきたいと思います。

①『神の召しによって与えられる望み』

まずは、『神の召しによって与えられる望み』というものであります。救われた私たちクリスチャンには、『望み』、つまり、希望が与えられます。私たちクリスチャンは、どんな窮地に陥っても、失望せずに済むのです。…と言いますのは、私たちクリスチャンには、すべてのことを御存知で、どんなことでも御出来になれる神様が味方になって、常に、私たちと一緒に居てくださるからです！だから、パウロも、こう教えますでしょ。ローマ 5:1-5、『1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいますが、3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいますが。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。…』と続いていくわけです。

⇒神様と和解できた私たちクリスチャンは、今は、神様と親しい関係にあるのです！だから、『患難』、一見すると、私たちの身に降りかかってくるような困難や災難さえも、私たちは感謝できるのです！何故なら、その背後には、必ず主権者であられる神様がいらっしゃるから…。私たちが、神に感謝していくことによって、益々、忍耐が養われ、品性につながり、それが、やがて、本当の希望に繋がっていくのです。私たちの神様は、私たちが、どんなに絶望的な状況に居たとしても…、神はみこころならば、一瞬にして、その状況を変えることが御出来になられます！

ここ 18 節では、『神の召しによって…』とあるように、神様は、そういった希望を、私やあなたを召し出すことによって与えてくださったのです。つまりは、神様の側からの招待状です。神様が、あなたを選んでくださったから…、「神は私たちが世界の基の置かれる前から、キリストにあって選んでおいてくださったから…、今日、皆さんはここにいらっしゃるのです！決して、偶然などではない…、神様の恵みがあなたには与えられているのです！

②『聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか』

2つ目の、『聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか』⇒未来において与えられる、祝福のことで。それはどのようにすればいい恵み & 望みなのでしょう？⇒それは、エペソ 1:14 に書かれてありました、『私たちが御国を受け継ぐ』って…。つまりは、天国のことで。私たちが、未来において過ごす永遠の地のことです。

正直、私はイエス様を信じて間もない頃、「天国に行ける…、天でごほうびがいただける…」と学んでも、そう大きな感動を覚えませんでした。…多分、その時の私は、もしも、何かの病気などで余命宣告されていたとしたら、「神様！今召されるのはイヤです！どうか、助けてください！」と祈ったことでしょう。…今にして思えば、その最大の理由は、当時の私が、天よりも現世の方に重きを置いていたからだと思います。しかし、段々と信仰が成長させられ…、天で与えられる祝福の偉大さやその価値を理解するようになっていった時、この世で得られる物との違いが分かってきて…、天で与えられる祝福の偉大さが少しずつ分かってきたように思います。

皆さんは、どうでしょう？…皆さんは、「もし自分の、この地上での人生が残り少ない…」と分かたら、悲しまれます？それとも、喜ばれます？…例えば、あのパウロは、ピリピ書で、自分が生かされて…、この地上で神様のために用いられるのと、それとも、早く天へ挙げられることとを比べて、どんなことを教えてくれています？ピリピ 1:23、『私は、その二つのもの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。』って…。

⇒皆さん、聞いてくださいました？…パウロからすれば、この地上で生きながらえるよりも、神様のおられる天へ挙げられることの方が、遥かに勝っています！というわけでしょう？…パウロは、天のことを、あまりよく分かっていなかったのでしょうか？ひょっとして、彼は、天に対して、大き過ぎる期待を抱いていたのでしょうか？

いいえ！パウロは、他の誰よりも、天に関してよく分かっていました。知っていました！…と言いますのは、IIコリント 12 章で、パウロが証してくれているように、彼は、神様の特別な恵みによって、少し早く、天へ挙げられたわけでしょう？…彼は、恐らく、一瞬だけですけれども、第3の天にまで引き上げられて、人間には語ることが許されていない言葉を聞いたわけです！…そんな経験をさせられたパウロが教えてくれているのです、「私たちに約束されている天国は素晴らしい！この地上で得られる、どんなものも、その素晴らしさには敵わない！」って…。そうでしょ！

どうか、ここで、もう1ヶ所を紹介させてください。それは、ヘブル書のみことばです。ヘブル 11:8-10、『8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らずに、出て行きました。9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。』

⇒あの「信仰の父」と称されたアブラハムは、この世では、寄留者として…、天幕(=テント)生活を送りました。しかし、彼は、この地上の都ではなく、天の都を思い焦がれていたのです。ここの少し後の、16 節をご覧くださいと、『彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。』とある通りです。どうぞ、続いて、ヘブル 11:24-26 もご覧ください。『24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。26 彼は、キリストのゆえに受けるそりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。』

⇒アブラハムだけでなく、モーセもそうでした！あのモーセは、当時、世界最高の栄華を極めていたようなエジプトの宝や贅沢な暮らしよりも、天で与えられる宝を、もっと価値あるものと考えました。だから、モーセは、この世で妥協するのではなく、神様のみこころを優先したのです！そうでしょ！

だから、どうか、皆さん。この地上にある物に心を奪われなさい。…私たちが、この地上で得られる物は、はかなくて…、決して、未来永劫に続く物ではありません。そうでしょ？よく言われるように、私たち人間は、「例え、新しい車を得ても、その喜びは1ヶ月…。例え、新しい家を手にしても、その喜びは1年しか続かない…」みたいな…、そんなものじゃありません？…でも、神様が私や皆さんのために用意してくださっている祝福は、そんなものの比ではありません！

③『神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるか』

さて、今日のみことばにある3つ目の内容…。それは、神様の力の素晴らしさ、その偉大さを知る！ということです。実は、ここ 19 節には同じような言葉が続いています。まず、『神の全能の…』とありますよね。次には、『力の…』という言葉です。そして、3つ目に、『働きによって…』という言葉。そして、4つ目は、『私たち信じる者に働く』という言葉があって…、最後、5つ目には、『すぐれた力』という言葉です。当然、原語のギリシヤ語でも、少し意味の違った…、「力」と訳せるような言葉が、5種類も使われています。

どうか、ここで、これら5つの言葉の説明をさせてください。まず最初の、『全能の…』という言葉ですが、この「μέγας」(メガス)という言葉は、「偉大な、大きい」ということを意味する言葉です。最近、流行っている、大きなものを指す時に、「メガ」という言葉と関連がある言葉です。2番目の、『力の…』という言葉(δύναμις)は、「権力や能力といったような、潜在力」を指すような言葉です。3番目の、『働き』ですが、この「ἐνέργεια」(エネルギー)という言葉は、働きと訳される以外には、「活動や活動力」と訳されるような言葉です。今でも、ガソリンなどのことを、エネルギーと呼びますが、その語源です。4番目に、『私たち信じる者に働く』という言葉(κράτος)があって…、それは、「威力や実力」などを指すようです。最後、5番目の、『すぐれた力』という言葉(ἰσχύς)は、「強さや勢い」などを表わすようです。

じゃあ、一体なぜ、パウロは、このような5つもの…、違うギリシヤ語を使って、この 19 節を書いたのでしょうか？⇒その理由を、簡単に、一言で言うと「強調」です。…と言いますのも、恐らく、当時、多くのクリ

スチャンたちが、実際に、神様の恵みや祝福を聞いて“は”いても…、本当にそれを信頼しきれていなかったからです。それで、パウロは、そのことを強調するために…、これらの5つの言葉を用いて、神様が私たちに約束してくださったものは完全である！ということ…、神様の力は十分であるということ…、そういった確実性を悟らせるために強調し過ぎる程、強調したのです。

つまりね、皆さん。パウロは、小アジアのクリスチャンたちに、「心配しなくて良い！」ということを書いたのです。「あなたたちは、神様の素晴らしい…、十分過ぎるほどの力によって支えられ、また、導かれている！守られている！だから、心配するな！」と言うのです。

●すべてを理解させる、聖霊なる神のお働き

さて、最後になりましたが…、18 節の初めにある、『また、あなたがたの心が目がはっきり見えるようになって…』というところに注目してみてください。実は、この当時には、この…、『心』という概念を表現するのに、他にも、たくさん言葉がありました。だからこそ、ここでパウロが使っている、『心』という言葉(καρδία)が、重要になってくるのですが…、ここで使われている言葉は、「人格やたましい、知性、意志」などを指す言葉なのです。

どうか、ちょっと、ここで、Ⅱコリント 6:11-12 のみことばを紹介させてください。『11 コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話しました。私たちの心は広く開かれています。12 あなたがたは、私たちの中で制約を受けているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。』⇒今、お読みしましたみことばの、まず、11 節の方、『私たちの心は広く開かれています。』という場合の、『心』は、先程の知性や人格、意志などを指す言葉(καρδία)が使われています。しかし、12 節の、『自分の心で自分を窮屈にしている』の『心』には、別の言葉(σπλάγχχνον)が使われています。こちらの方の言葉は、先程の言葉と違って、様々な言葉の中で、最も感情を強調する言葉です。「内臓、愛情、同情、憐れみ」などと訳される場合もあります。…ちょうど、日本語でも、思い切り腹が立った場合などに、「はらわた(≒内臓)が煮えくり返る」などと表現しますよね。…そんな類の言葉なのです。

⇒ここで、パウロは、コリント教会のクリスチャンたちに対して、「私たちは、自分たちの知っていること全部をあなたがたに与えたい！あなたがたに教えたい！」と言うのです。それが、パウロの願いなのです。ところが、12 節を見ると、それを邪魔しているものがあると言うのです。それが、彼らの感情なのです！

パウロは、このように、よく似た言葉を使い分けることによって…、彼らが成長していく上で、本当に必要なのは、神に関する正しい真理であって、感情的に燃え上がることではない！と教えてくれているのです。…と言いますのも、神の教えてくださる真理ではなく、感情に重きを置くことによって、私たちの信仰というものが間違った方向に進んでしまい易いからです。

<励ましの言葉>

どうか、皆さん、思い出してください。私たちがつい最近(2021/11/28)、ルカ 24 章のみことばから、あのエマオという村に行く途中で、あの弟子たちの心(καρδία)を燃え上がられたものは何でした？…それは、イエス様がなしてくださったみことばの説き明かしであつたでしょ！彼らは、別に、エマオへ行く途中に、何かの病が癒されたとか、何か欲しい物が与えられたのではなくて、ただ、神様の…、特に、救い主に関する旧約聖書からの説き明かしを聞くことで、神様の偉大さに触れることができ…、そういったことが、彼らの心を…、信仰を燃え上がらせたのです！…そうだったでしょ！

確かに、彼らは、頼りにしていたイエス様が十字架にかけられて、亡くなってしまったということで、意気

消沈していました。…でも、彼らは、そのイエス様の復活を知る前に、イエス様が説き明かしてくださったみことばによって…、言わば、そのみことばが教えてくれている神様の偉大さに触れることができ、そして、彼らの内にある信仰が燃やされたのです！…そうでしょ！

…ですから、どうか、今日のメッセージを聞いてくださっている皆さん…。皆さんも、何か、周りの状況が変わったり、何かの物質が与えられたり、あるいは、自分の病が癒されることではなくて、神様の真理を知る者となってください！…と言いますのは、そこにこそ、私たちの祝福があるからです！私たちが信じ仕えている神様に不可能はありません！神様は、最善なるみこころの内に、すべてのことを御支配なさっておられるのです。そうでしょ！…この神様と、私たちクリスチャンとは決して無関係ではありません。私たちは、この神様と和解した者であり、この神様と一体とされているのです。…ですから、どうぞ、例えば、周りがどうであつたとしても、心配することなく…、大胆に歩んでいきましょう！

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。神様は皆さんにも、この恵みを与えようとして、今、救いの御手を差し伸べてくださっています。…確かに、救いというのは、神の選びによるもので、神様の御働きによるものであります。でも、それは、私たち人間には知ることができません！…私たちに今必要なのは、この神様を信じるか否か？救いを得ようとするかどうか？だけです。…そうして、あなたが信じ、救われることができれば、あなたも、神様の選びの中にあつたということを知ることができるのです。どうか、今日の内に、このイエス様を信じて、救われてください！…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。